

2014.9.6

# 追悼－巨匠ロリン・マゼールを偲んで

## プログラム

去る7月13日、世界的な名指揮者、ロリン・マゼールが亡くなりました。84歳でした。今日はマゼールが残したライヴ音源の中から選りすぐりの演奏をお聴きいただき、この名指揮者を偲びたいと思います。

マゼールは1930年3月6日ユダヤ系ロシア人の父とハンガリーとロシアの血を引く母の間にパリで生まれました。すぐにアメリカへ移住。5歳からヴァイオリンを始め、8歳でニューヨーク・フィルを指揮してデビュー、神童ぶりを発揮しました。1964年～1975年ベルリン放送響の音楽監督、1965年～1971年ベルリン・ドイツ・オペラの音楽総監督、1972年～1982年クレーヴランド管弦楽団の音楽監督、1982年～1985年ウィーン国立歌劇場の総監督、1988年～1996年ピッツバーグ交響楽団の音楽監督、1988年～1990年フランス国立管弦楽団の音楽監督、1993年～2002年バイエルン放送響の音楽監督、2002年～2009年ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督、2012年～2014年ミュンヘン・フィルの音楽監督を歴任しました。この輝かしい経歴を持ってしてもマゼールを失意のどん底に突き落とす事件がありました。それはカラヤンの後を継ぐベルリン・フィルの新音楽監督争いでアバードに敗れた事です。1999年までベルリン・フィルからの出演依頼に応えなかった事からもその落胆ぶりが伺えます。マゼールの指揮は、特に90年以降、出来、不出来の激しい時期がありましたが、“本気を出した時のマゼールは凄い！”という言葉が物語るように、その時はそのオーケストラから最良の音を引き出し、気力の充実した、圧倒的な存在感を示すのです。一方で、ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートにはヴィリー・ボスコフスキー、クレメンス・クラウスに次ぐ11回の登場、しかもヴァイオリンを弾きながらの指揮はボスコフスキーとマゼールだけです。今日はバイエルン放送響音楽監督就任の年に、このコンビでの初来日公演からブラームスの交響曲第1番。2003年から岩城宏之の指揮で始まり、毎年大晦日に行われる“ベートーヴェンは凄い！全交響曲連続演奏会”にマゼールが登場した2010年の演奏会から第3番「英雄」。昨年9月、最晩年の録音となったブルックナーの交響曲第8番と大曲を中心にお聴きいただきますが、付き合いの長かったベルリン・フィルとの演奏、ニューイヤーコンサートでの演奏も合わせてお楽しみ下さい。

\*\*\*\*\*

**イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882～1971):**

**ヴァイオリン協奏曲ニ長調～トッカータ、アリア1から、カプリッチョ**

キヨン・ファ・チヨン (ヴァイオリン)

ロリン・マゼール指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1983. 3. 9 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

**ヨーゼフ・シュトラウス (1827～1870):**

**ポルカ・マズルカ “ナスヴァルトの娘” op.267**

ロリン・マゼール(ヴァイオリンと指揮)ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1996.1.1 ウィーン・ミュージクフェラインザールでのLive ニューイヤーコンサートより)

**ヨハネス・ブラームス (1833～1897):**

**交響曲第1番ハ短調 op.68～ 第1楽章から、第2楽章一部、第4楽章から**

ロリン・マゼール指揮バイエルン放送交響楽団

(1993.3.21 サントリーホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770～1827):**

**交響曲第3番変ホ長調 op.55 “英雄”～ 第1楽章、第4楽章**

ロリン・マゼール指揮岩城メモリアル・オーケストラ

\* このオーケストラはNHK交響楽団を中心に東京都響、新日本フィル他主要オーケストラの選抜メンバーで構成  
(2010.12.31 東京文化会館大ホールでのLive)

**アントン・ブルックナー (1824～1896):**

**交響曲第8番ハ短調～第4楽章**

ロリン・マゼール指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(2013.9.7 ドイツ、レーデフィンのコンサートホールでのLive)

